

フロン市

フロン市は、ノルウェーの首都オスロから南へ約 30 キロの距離にある小都市（アーケシェフース県に属する）で、オスロフィヨルドの東側に位置しています。人口は約 14,000 人。フロン市からは、毎年 12 月に大阪・中之島エリアで行われている「OSAKA 光のルネサンス」にあわせて「ワールド・リンキング・ツリー」を贈ってもらっています。ノルウェー政府公認の「サンタクロースの故郷」ドローバックがあることでも有名です。

ワールド・リンキング・ツリーとは

毎年クリスマスの季節になると、ノルウェーから世界の主要な都市に「愛と平和と友好」のシンボルとして送られるツリー。最近では宗教的意味合いはほとんどないようである。ツリーは、オスロ市民が第二次世界大戦中に受けたイギリスの援助に対する感謝の意味で 1947 年に 1 本のモミの木を贈呈したのが始まり。毎年、ロンドンのトラファルガー広場では贈られたツリーの点灯式が行われ、エリザベス女王も臨席するなど世界的に有名な行事になっています。

◆フロン市からツリーをいただくことになった経緯

日本では関西国際空港が開港した 1994 年から 1998 年までの 5 年間、日本万国博覧会記念協会がワールド・リンキング・ツリーをフロン市から誘致し（大阪府後援・エキスポランド協賛）、エキスポランド内に設置されていましたが、1999 年以降は諸事情により中止となりました。2002 年に「御堂筋いちょうのイルミネーション」事業（ゆとりとみどり振興局事業）が「OSAKA 光のルネサンス」事業へリニューアルするのに際して、そのシンボルプロジェクトとして大阪市に誘致されました。

2002 年以降フロン市からは毎年ツリーの贈呈を受けており、「OSAKA 光のルネサンス」の初日である 12 月 1 日の点灯式には、フロン市長（またはその代理）及びノルウェー大使に来賓として参加していただいています。

フロン市には、ツリーの選定（市長みずからが行うそうである）、切り倒し式、輸送（空輸）などで多大なご協力をいただいています。これまで、大阪市としては公式にフロン市を表敬訪問したことはなく、今回が初めての公式訪問でした。

2 月 11 日（月）

ヴェツビー市長表敬訪問

朝 7 時過ぎにオスロ市内から車で出発し、30 分程度でフロン市役所に到着しました。市長とは朝 8 時にアポイントを取っていました。そんなに早く開庁しているのかとも思いま

したが、市役所にはすでにトーレ・ヴェツビー市長、ローアルド・ハンセン助役がスタンバイしておられました。市役所は午前8時から午後4時まで開いているとのことで、すでに市役所には何人かの市民も来庁し、職員が対応していました。

市長執務室に案内され、表敬と意見交換を行いました。市長からは、世界的な大都市である大阪市から表敬を受けることに感謝の意が表されました。私からは、トーレ・ヴェツビー市長をはじめ、フロン市からのワールド・リンクング・ツリーを通じたこれまでのご協力に感謝の意を表し、大阪市会からの感謝状を贈呈しました。

私から「2002年より毎年フロン市からお贈りいただいているワールド・リンクング・ツリーは、毎年12月に大阪市役所玄関前で美しいイルミネーションにより装飾されています。私も昨年のワールド・リンクング・ツリーの点灯式に出席しましたが、今や大阪の冬の風物詩として定着しており、多くの市民はもとより内外からの観光客など多くの皆様に親しまれています。引き続き、大阪市、大阪市民のため、「愛と平和と友好」のシンボルであるツリーについてご配慮賜りたい。」と申し上げると、ヴェツビー市長からは「今後とも最上級のツリーをお贈りする。」とのありがたいお言葉を頂戴しました。

そして、平松市長からの親書を手渡した後、私とヴェツビー市長との間で今後の友好関係を確認するための共同宣言文書の交換を行いました。



ワールド・リンクング・ツリーを通じた友好関係についての共同宣言

愛・平和・友好のシンボルであるワールド・リンクング・ツリーを通して、ツリーでリンクする世界の諸都市との交流を進めるとともに、大阪市とフロン市の相互理解と親善関係を一層深めることをここに宣言する

◆フロン市の市政概要

ノルウェーとフロン市の概要について、ヴェツビー市長から次のような説明をいただきました。

「フロン市が属する国であるノルウェーは、人口が 450 万人、20 の県と 430 の市があり、国連調査によると世界でも最も住みやすい国のひとつである。

フロン市の人口は約 14,000 人のうち、9,904 人が選挙権を有する。市議会議員の選挙は 4 年に 1 回行われ、前回選挙の投票率は 67.8%（かなり高い）であった。男女平等が進んでいるノルウェーでは、各種審議会のメンバーはその 40%以上が女性でなければならない。

県は、学校（高校）管理、広域道路、文化的行事について権限と責任を有するが、市は、保育所、学校（高校を除く）、高齢者施策、文化、経済、インフラ整備、建築、規制、環境、水道、衛生、ゴミ収集、小規模道路、駐車場、公園、消防、福祉について権限と責任を有する。

市には、高齢者施策、障害者施策、スポーツ施策、文化施策、文化財保護に関する審議会が置かれ、専門委員が配置されている。

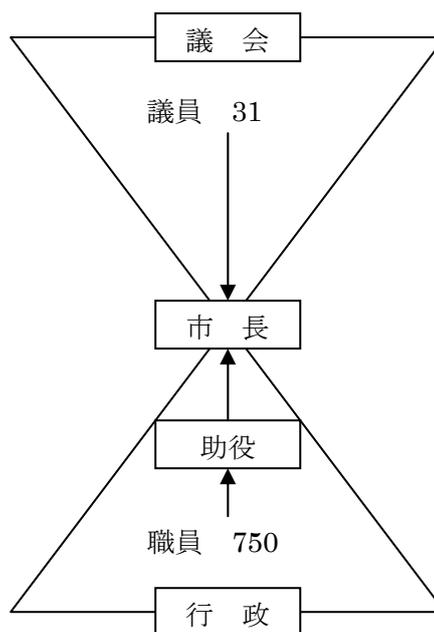
市の職員は、雇用施策、自然保護、港湾、教会（市の予算で運営されている）、苦情処理、規制、徴税、小中学校といった分野に配置されている。」

◆議会と行政との関係

さらに、議会と行政の関係について、次のような説明を受けました。

- ・市議会議員は 31 人で、市長はこの中から市民によって選任される
- ・市長以外の議員はすべて非常勤で、兼業である
- ・議長という単独のポストはなく、市長が兼任している
- ・議会は市長を通じて行政側と議論する
- ・議会は年間 10 回程度、夕刻に開催される
- ・議会には、経済開発委員会、環境建設委員会、児童・福祉・文化委員会が設置されており、そこで議論されたことが本会議に諮られる仕組みになっている
- ・助役は議会により 1 名選任される
- ・行政側の実質的なトップは助役である
- ・職員数は 750 人

以上の関係を図示すると、右図のようになります。



党派別議席数 保守党：10
労働党：6
自由党：4
左派社会党：2
年金受給者党：1
その他：8



ヴェツビー市長(右端)表敬

◆市長宅にて

市役所での表敬終了後、市長の自宅へ招待されました。市長には専属の秘書や運転手がおらず、常に携帯を所持し、みずから車を運転して公務にあたっていたのが印象的でした。

市長の自宅は市役所から車で5分程度の場所（高台）にあり、正面に観光名所オスカスボルグ要塞が望め、オスロフィヨルドも見渡せる絶好のロケーションでした。時間帯によっては、コペンハーゲンとオスロを行き来する大型客船が見えるということで、眼下にはヨットハーバーが広がっていました。

そこではノルウェー流（パンにハム、チーズ、卵、サラミ、レバー（コーンビーフに似た）、野菜等を好みにあわせてはさんで食べる方式）の朝食をご馳走になりました。

そのときに、話題となったことですが、フロン市では新しい学校は建設しないという方針があり、1年に建設できる住宅は100戸に過ぎず、2,500戸が待ちの状態とのことで、そのためか不動産価格は近年上昇傾向にあるということでした。フロン市の生活水準は比較的高く、ノルウェーの平均を100とすれば123程度であり、そこで得られた税収入は、他の裕福でない市や町に分配されるということです。

ドローバック

市長、助役とともに遅めの昼食を取った後、フロン市の市街地を案内してもらいました。

ドローバックと呼ばれる市街地エリアは、サンタクローズの故郷として世界的にも有名

な観光地です。人口は 3,000 人程度ですが、古い木造家屋が保存され、海辺にも近く風光明媚なまちなみを有していました。

ドローバックは、季節に関係なく一年中クリスマスが行われており、「クリスマスのまち」とも呼ばれています。12 月のクリスマスの日にはまちじゅうがイルミネーションで飾られるということです。

サンタクロース・ハウスでは、クリスマス、サンタクロースグッズが年中売られ、サンタクロース郵便局には、世界中からサンタクロースあてに年間 30 万通もの手紙が届けられるということで、ここに手紙を送ると、「サンタからの手紙」として返事をもらうことができます。また、観光インフォメーションセンターでもサンタクロースへの手紙を受け付けていました。



ドローバックのまちなみ

オスロ市庁舎

すべての行程を終了し、オスロ市内のホテルに戻りましたが、オスロ市庁舎が近くであり、午後 6 時まで見学できるということであったので、急遽視察をすることにしました。

オスロ市庁舎は、オスロ港に面して建てられており、港との間の広い道路は終日歩行者天国となっていました。この市庁舎はオスロ市創立 900 年を記念して建てられたもので、1950 年に完成しました。中央の大ホールをはさんで両翼にタワー棟があり、執務棟になっています。

オスロ市庁舎 1 階の中央大ホールでは、毎年 12 月 10 日にノーベル平和賞の授与式が行われています。

このホールの床は幾何学模様の大理石でできており、特に巨大な壁画は素晴らしく、美術館さながらの様相を呈していました。ヨーロッパ最大の規模ということで、壁画の作者は地元の著名な画家で、ノルウェーの歴史や四季の情景、市民の暮らしぶりが描かれました。

2 階にも天井が高くて大理石の張られた豪華な部屋がいくつもあり、壁には壁画やタペストリーが飾られていました。歴代の王や王妃の肖像画が並んでいる部屋や、ノルウェー

出身の画家ムンクの絵が飾られた「ムンクの部屋」がありました。オスロ市と交流のある世界各都市からの贈り物も展示されていました。

このような市庁舎を目の当たりにし、大阪市役所の玄関ホールのさらなる活用方法を検討する必要を痛感しました。

国連本部の議場を真似てつくられた議場はたいへんこじんまりとしたものでしたが、2階から傍聴できるようになっていました。



オスロ市庁舎玄関ホールにて

ロンドン市

ひとつの自治区であるロンドン・シティと区別して、大ロンドン市：グレーター・ロンドン・オーソリティ（Greater London Authority(G L A)）と呼ばれています。

2000年に創設されたロンドン全域を管轄する広域自治体で、区域はロンドン・シティと32のBorough（自治区）から成っています。

G L Aには約400人の職員がいますが、G L Aがロンドン全域に係る計画や調整のみをつかさどる行政体として位置づけられており、住民に対する直接的なサービス提供などの機能はこれまでどおり各区が担当しています。

(沿革)

1965年：大ロンドン市(Greater London Council(G L C))創設

ロンドン全体の計画を所管する広域自治体。区域はシティと32の行政区に区分されていた。

1986年：大ロンドン市(G L C)廃止

権限、事務事業はシティと32の行政区に引き継がれた。

行政区だけでも十分な行政サービスが提供できるため、行政区と中央政府の間に別の行政組織は不要との理由による。

1997年：中央政府（ブレア労働党政権）がロンドンを包括する自治体を提唱

廃棄物処理計画や公共交通政策などに関して広域的な行政組織が必要と判断

1998年：G L A創設に係る住民投票実施

1999年：大ロンドン議会法成立

2000年：5月。市長、市議会議員選挙（ケン・リビングストン氏が市長に当選）

7月。大ロンドン市発足

2004年：6月。市長、市議会議員選挙（ケン・リビングストン氏が市長に再選）

大ロンドン市（以下、「ロンドン」という）の人口は約730万人。ヨーロッパで最も経済成長している都市です。1980年代、サッチャー政権は民営化などを軸にイギリス経済を再建しましたが、ロンドン市(G L C)が廃止されて以降、移民を中心として人口が急速に増加し、民営化の副作用により、オフィス・住宅の不足、公共交通の老朽化、自動車への依存など数々の都市問題が生じました。それらの問題を解決すべく、ロンドン市(G L A)は、2004年に「ロンドンプラン」を発表。公共交通や住宅への投資を積極的に行うとともに、都心の活力を高めて職住接近の構造をつくり、都市の緑化、公共交通の充実などで、美しい環境都市の実現を目指しているということでした。

たしかに、ロンドンの地下鉄をはじめとする鉄道網はかなり発達していました。しかしながら、私も実際に体験しましたが、交通渋滞がひどく、特に通勤ラッシュ時はかなりの

ものでした。通勤時にリュックを背にプッシュバイクに乗っている人やジョギングをしている人を多数見かけましたが、ロンドンでは、交通渋滞、大気汚染を緩和するため、自転車通勤、ジョギング通勤を奨励しており、企業にもシャワー設備や休憩室を設置する企業が増えているとのことでした。

また、2003年から混雑税が導入され、平日の午前7時から午後6時にロンドン中心部の幹線道路を通行する際には1日8ポンドの税金がかかるシステムになっていますが、2月12日にロンドン市は混雑税の見直しを発表し、10月27日からはCO₂の排出量の多い車両や四輪駆動車などを利用する場合、現在の3倍にあたる1日25ポンドの支払いが義務付けられることになりました。逆に排出量が少ない車両は無料となります。このため、この措置には多くの不満が出ているということです。



ロンドン市庁舎にて

(巻貝のような形状で内部はスロープで昇降できるようになっている)

2月13日(水)

カードウェル(Cardwell)小学校

午前9時、天文台で有名なグリニッチ区にある、カードウェル小学校を訪問しました。

ここは、公立小学校で、生徒数は432人です。学校の1年は9月から始まり、秋、春、夏の3期制で、統一した入学式というものはなく、学期ごとに生徒を受け入れています。児童が5歳の誕生日を迎えたらその次の学期の始めから入学することが可能ということです。また、公立学校に通う児童・生徒の授業料は無料で、公立学校の入学に際しては、必ずしも地域の最寄りの学校に入学しなければならないわけではなく、保護者に学校選択権があります。

キャロル・スミス校長から、様々な取り組みについて次のような説明を受けました。

◆概要と特色

カードウェル小学校は、市街地にある大規模な小学校で、人種的・文化的に多様な児童を抱えている。最も多いグループは、英国系白人及びアフリカ系黒人の家庭の児童で、英語を母国語としない児童の数が多く、英語習得の初期段階にある児童もいる。学年途中で編入・転出する児童数は全国平均を上回っており、無償学校給食を受ける権利を有する児童の割合が高い。この小学校が属する地域は貧困層を多く抱え、失業率、犯罪発生率が高く、地域再生プログラムが進行中である。現在、地域社会における中心的活動主体となっている。

2007年3月には同校理事会（governing body）が運営する子どもセンター（Children's Centre）が開設され、3歳までの乳幼児を対象とした終日ケアが提供されている。これにより、子どもたちが入学前から遊びや学習のスキルを学べるようになった。

また、クラブ活動などカリキュラム外の教育・レクリエーション活動の機会が児童に提供されるとともに、保護者や家族を支援する次のようなサービスも幅広く提供されている。

- ・ 学童保育（学校との緊密な連携のもと実施）
- ・ 学校施設の放課後開放（児童の兄姉（13歳から19歳）を対象）
- ・ 英語を母国語としない保護者の支援（サークル活動）
- ・ 保護者フェア、保護者への定期的な助言
- ・ DVに関する相談、心の健康のケア

OFSTED（Office for Standards in Education：教育基準局）が実施した監査においても、2007年度に高い評価を得た。



カードウェル小学校キャロル・スミス校長と

◆総合的な取り組みとその効果

カードウェル小学校では、すべての児童が安心感を持って立派に行動し、大きく成長できるようにきめ細かな配慮のもとで教育が行われている。同校では、これまで広く関係機関や保護者、地域社会と素晴らしい協力関係を築いてきたが、こうした協力関係が児童一人ひとりの顕著な成長にプラス効果を及ぼすと同時に、学習を妨げる障壁を彼らが乗り越え

る後押しとなっている。高質で広範囲にわたる関連サービスと、素晴らしいケア・サポートを提供しており、これが同校の業績を支えるとともに、保護者や地域社会の同校に対する評価につながっている。「カードウェルは、安全で組織化された、堅固で豊かな学習環境を備えた素晴らしい学校である」というのが一般的な評価である。

学習が困難な状況や学習障害を抱える児童、英語を母国語としない児童が多いが、こうした児童の基礎的な学力は向上している。児童の発達状況は丁寧にモニタリングされ、追加的支援の目標設定も適切になされている。学校や子どもの教育に関心を持ってもらえるよう子どもの親と個別に契約を結び、子ども一人ひとりに合わせた目標を設定している。学習面での目標を設定することにより、落ちこぼれを防止する効果が発揮されている。その結果、児童はスタート時点の低いレベルから比べると大きな成長を見せている。卒業時における能力基準は全国平均以下にとどまっているものの、その差は徐々に狭まってきている。

私語を慎むなど児童の学習態度はよく、活動にも熱心に参加している。これは行動管理が効果的で一貫していること、良好な人間関係が築かれていること、日常の学校生活の流れがしっかりと確立されていることによる。校則に違反した生徒には制裁が科されるなど生活指導は大変厳しい。

幅広い関連サービスは、現行の優れた教育課程に好影響を与えると同時に、子どもの学習を支援するために保護者に必要なスキルの育成にも役立っている。読み書き能力と計算能力の開発や、子どもたちが特に楽しんでいるスポーツ関連活動といった様々な情操教育にも取り組んでいる。

◆低学年児童への対応

年齢相応のスキルや知識を持って入学する児童は少数で、特にコミュニケーション能力、言語、読み書き能力については、その年齢で期待されるものを満たしていないが、低学年時に基礎的な指導を効果的に行うことで、子どもたちのニーズをすばやく確実に見極めることができる。子どもたちが早く落ち着いた学校生活を送れるよう、同校の教育マネージャー（グリニッチ区から派遣）が保護者や外部機関との連携関係を形成している。子どもたちは学習のあらゆる分野で順調な成長を見せ、1学年上がるごとに期待された目標に到達する。教室や屋外区域は魅力的かつ整然としており、子どもたちは全体的に学習活動を楽しんでいる。同校はよい人間関係と礼儀作法の確立に大きな力点を置いていて、これが子どもたちの個人的・社会的、また情操面における非常に順調な成長を確実にしている。さらに『幼児サッカー』などの活動にとりわけ熱心に参加し、身体面の発育も非常によい。

◆児童一人ひとりの発育

未だ全国平均を下回っているとはいえ、出席状況はかなり改善している。児童は登校を本当に楽しみにしており、学校に来たいという気持ちを強く持っている。学校側から与え

られる活動にも積極的に参加し、学校生活をエンジョイしている。児童は自分たちに注がれるすばらしいサポートやケアにより疎外感を感じることなく生活している。同校の校訓である『相互尊重』に対して非常によく理解を示しており、自分の行動がいかにかに他者に影響を与えるか、礼儀正しく思いやりのある行動とはどのようなものかをしっかりと理解している。こうした関係づくりが、児童の善行や行動改善につながっている。児童の精神面、道徳面、社会的及び文化的な発達はずばらしく、道徳的、社会的、他国の文化に関わる問題について鋭い認識を示している。日本の文化を学ぶクラスもある。このことが生徒同士の関わり方に著しい影響を与えるとともに、調和のとれた多民族コミュニティ形成に貢献している。こうした児童の意識の高さは、教育課程の次段階に対する心構えを児童にさせるとともに、積極的な学習態度を養うのに大いに役立っている。同校はヘルシースクール・アンド・アクティブスクール賞も受賞している。児童は、児童会（school council）への参加も楽しみにしており、校内の改善に積極的に貢献している。

◆授業内容及び学習活動

授業及び学習活動は良好である。指導計画は綿密で、教師は関連コンピュータプログラムを含め幅広い材料を活用して、学習を興味深く楽しいものにすることに成功している。児童は熱心に学習し活動に積極的な姿勢を見せ、しっかりと進歩している。学習活動は、綿密に見極めた児童のニーズに基づき、変化に富んでいる。習熟度別の学級編成も行われている。教師は、特に学習が困難な児童や学習障害を抱える児童、最も弱い立場にある児童の学習効果を高めるため、サポートスタッフのスキルや専門知識をうまく活用している。



カードウェル小学校の授業風景

◆カリキュラム及びその他の活動

イギリスには、日本のように統一された教育指導要綱や選定教科書は存在せず、授業の内容やスケジュールは学校・教師がみずから考え工夫することになっている。同校のカリキュラムは興味深く適切で、全児童のニーズを満たすよう綿密に練られている。読み書き、計算、情報通信技術（ITC）を授業の中にうまく取り入れ、児童のスキルを向上させると同時に楽しみも増やしている。数多くのパーソナルコンピュータなどの優れた設備も、

カリキュラム強化に効果的に活用されている。全校をあげて読み書きスキルの質を向上させるため、スポーツコーチの専門家、音楽の専門家、地元アーティストやボランティアのリーディング・スキームが効果的に活用されている。また同校は、機会を見つけて地元のフットボールクラブやO₂センターといった地域社会団体とも協力し、カリキュラムの質向上に取り組んでいる。

また、同校は、課外活動やクラブを総合的に付加してカリキュラムを広げている。こうした活動に対する児童の参加状況はよく、スポーツ、音楽、チェス、ダンス、ドラマを含む様々なクラブ活動が展開されている。

◆ケア、ガイダンス及びサポート

児童に対するケアやサポートは素晴らしく、児童一人ひとりのめざましい成長に大きく貢献している。子どもを守り、その安全性を確保する手順はしっかりしている。子どもたちの精神面をケアするスタッフが、友達ができずに孤立している児童や、家庭の問題で悩んでいる児童の相談相手になっている。またその家族も、同校の幅広い対応や外部機関とのすばらしい連携により、校内で卓越したサポートを受けている。何か問題が起きた場合はスタッフが迅速かつ厳密に対処し、特に情緒的なニーズやサポートの必要がある児童が、安心感を持って校内で生活できるよう配慮している。英語を母国語としない児童及びその家族には卓越したサポートが提供されている。児童が毎年成長すべき点については明確な期待値が設定され、これが半期ごとに行われるプロGRESS・ミーティングの場を通してモニタリングされる。教科主任は授業参観などのモニタリングに関与している。

◆指導及び運営体制

政府が直接各学校に財政支出を行い、各学校には予算面を含め大幅な自主裁量権が認められているが、各学校では学校理事会がその運営を任される。学校理事会は、イギリスの公立学校には必ず設置されている組織であり、理事会のメンバーは、教師、保護者代表、地域住民の代表、校長などである。学校の予算や人事、カリキュラムの選定、学校のすべての運営方針の最終決定に権限を有している。

これとは別に、地元のボランティア的な代表者からなる評議会が存在し、校長に対して苦情を伝えたり、学校に対して提案を行ったり、学校と一体となって活動している。

カードウェル小学校についての説明を受けた後、次のような質疑応答を行いました。

(質問) カードウェル小学校では、習熟度別の授業が行われているということですが、その内容はどのようなものでしょうか。

(回答) 授業科目は英語と国語で、7歳以上の学年が対象です。